

日程第2．一般質問

○議長（松尾徹郎君）

日程第2、一般質問を行います。

1日に引き続き、通告順に発言を許します。

田原 実議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。〔18番 田原 実君登壇〕

○18番（田原 実君）

おはようございます。田原 実です。

通告書に基づき、第1回目の質問を行います。

1、「平和教育」への認識と取組について。

(1) 今年相馬御風生誕140年の年ということで、私は改めて相馬御風の生涯と苦勞、苦難を知る機会となりました。その中で、戦争は人命だけでなく、経済、文化、生活、考え方や行動の自由をも奪うことや、糸魚川のような地方の小さな都市にも大きな影響を与えたことなどを改めて学びました。相馬御風と戦争について、市民が知る機会をつくることに取り組んではいかがですか、伺います。

(2) 今年で学徒出陣から80年とのことですが学徒出陣とは何か、あるいは学徒勤労働員とは何かを学ぶ教育はありますか。長岡などでは空襲で多くの市民が亡くなったことを子供たちが学んでいます。捕虜、B29、防空壕、疎開児童、開墾、しらみとDDTなどを糸魚川の若者、学生、子供たちは学んでいますか、伺います。

(3) 今年発刊された糸魚川市地区老人クラブ連合会創立50周年記念論文集「きぼう」に掲載された記事に学ぶことは多く、また市民の中には戦争の前後に糸魚川に疎開し、教育の機会を奪われながらも苦勞して学び、働き、家族を養って生きてきた方がおられます。この方たちのリアルな声を、「70年後のあなたへ 88歳から18歳におくるメッセージ」としてまとめ、平和教育に役立ててはいかがでしょうか。課題は、幾世代も前の戦争の現実を知らない若者、学生、子供たちだけでなく、教える側もその時代と経験を理解することが難しいということや戦争そのものが変わってきたことです。この点、老人クラブ連合会の皆さんとも話し合い、お知恵をいただいておりますか、伺います。

2、市内医療の充実、地域医療体制確保の取組と市の責任について。

(1) 市内分娩体制の現状と分娩の状況について伺います。また、いつまで市内で分娩できるのか、医師確保に必要な費用はどのくらいか、伺います。

(2) 能生谷地区から糸魚川総合病院まで出てくる苦勞を市民から伺いました。能生国保診療所での対応や訪問診療では難しいものがあるのでしょうか、現状と課題を伺います。

(3) 市長がいうところの新潟県地域医療構想での位置づけ、上越圏域での位置づけを具体的に説明願います。糸魚川総合病院が規模縮小した場合、これまでも課題であった医師・看護師不足、診療科不足への対応がよくなるとは考えられません。市内医療の充実、市民の望む診

療科確保ができるか疑問です。地域医療構想によって課題が解決されるとするその根拠を伺います。

(4) 9月定例会の私の一般質問で、糸魚川市と黒部市のそれぞれの市民がどういう医療の下にあるか比較したことはないと言行政答弁がありましたが、なぜですか。黒部市と比較しても安心して健やかに住める医療体制が確保されていると私たちが思える日はいつ来るのでしょうか、伺います。

3、駅北子育て支援複合施設基本計画の問題点と市民合意について。

(1) 駅北子育て支援複合施設基本計画に「子育て支援センター」を設置する経緯について伺います。また、センターに併せて子供が専有する大型の屋内遊戯場を設置する理由、計画面積、その根拠について伺います。

(2) 駅北子育て支援複合施設基本計画の問題点は、計画の内容がまだ決まっていないと市長が議会で答弁していることです。また、行政が考えた運営計画が示されていないことです。さらには、パブリックコメントを行ったが、その後近隣住民や市民・団体への説明が不十分で合意形成できていないまま、事業費概算15億円、年間運営委託費5,000万円で長期の委託契約を行うDBO方式を進めることだけが先行していることです。市民は納得していないのに市長はなぜそのような進め方をするのか、伺います。

(3) 設計・工事・運営を一体で行うDBO方式を進めることが頓挫した場合には指定管理として業務委託するとしています。なぜそうするのか、また指定管理とはどういうことか、今回のケースに当てはめて市民に説明し理解を得ていますか、伺います。

(4) 計画から運営まで、塩尻市の施設「えんてらす」が参考になると考えます。総務文教常任委員会の市外調査に行政担当課も同行していただき、複合施設の計画と運営において、住民との合意形成の進め方や市直営の施設運営が利用者を増やしていることが理解できたと思います。糸魚川市の計画と運営は塩尻市のレベルにまで行けますか、伺います。

(5) 9月一般質問と総務文教常任委員会において、私からは「田原プラン」として対案をお示ししました。改めて申し上げますと、建設の目的はにぎわいづくり、設計の基本は使わないスペースはつukらないこと。施設機能と面積は、遊戯室300平米、子育て支援センターと一時預かりで150平米、図書館300平米、ギャラリーイベントスペース150平米、塩尻市の「えんてらす」の設計にある共有スペース600平米、その他スペース150平米程度、屋内駐車場はなし、延べ床面積は最大1,650平米500坪まで。総2階建て一部3階、屋上は子供と近隣住民のフリースペースとします。工事費は備品、外構を含む建設事業費で10億円以内とし、既存建物取壊し工事費は別途とする。運営は塩尻市の「えんてらす」の成功事例を参考に、まずは市直営として様々な課題を整理した後に業務委託を考える、というものでした。その後ご検討いただけましたか、伺います。

(6) 計画敷地の隣地や近接する市有地の利用はどうなりますか。工事に必要なヤードや不足する駐車場への対応や、近隣住民や観光客が利用する収益施設を入れた民間主導の複合施設の計画などを考えて、子育てのことだけではない様々な課題の解決に向かうまちづくりを進めるべきです。大火以降多くの時間をかけてきたのは、復興計画の本来の目的である市街地のにぎわいと活性化につながる計画、土地の価値が上がる計画とするためではなかったのです。

か。事業スケジュールと市民合意をどうお考えか、改めて伺います。

4、市長が長年取り組んだジオパーク活動と鉄道ファンが考えた様々なアイデアとの融合と具体化について。

(1) 令和5年度は大糸線存続の勝負の年と考え、議会一般質問で毎回質疑し、大糸線応援隊の方の提案を紹介してまいりましたが、大糸線の活用及び利用促進について、どのような変化、推移、進展が見られましたか伺います。また広域観光連携における大糸線の活用はこれまでもお尋ねしていますが、今回は糸魚川市観光統計にあるポイントでの取組と成果について、以下伺います。

① 北アルプス日本海広域観光連携会議の観光誘客促進事業での、デジタルスタンプラリー、台湾への情報発信、鉄道オススメスポット魅力発信、サイクルツーリズム推進事業による利用者の増加について、どの程度の数と見込んでいますか。

② 大糸線活性化協議会での観光誘客促進事業による利用者の増加について、どの程度の数と見込んでいますか。

③ 大糸線応援隊事業による利用者の増加について、どの程度の数と見込んでいますか。

④ ①から③までの費用対効果をどう考えますか。

(2) 大糸線応援隊メンバーから出されたアイデアには、大糸線とジオパークを連携させ相乗効果が期待できるものがあると思います。鉄道ファンならではの視点、例えば「絶景列車」での景観ガイドの充実やアナウンス、トロッコ列車の運行などに組み込めば大糸線利用者は必ず増えると考えますがいかがですか、伺います。またイベント時や連休時の車両増結は、鉄道会社としてのサービスの基本と考えますがいかがですか、伺います。

(3) 大糸線は南小谷駅で鉄道会社が変わることで利便性が下がることが課題となっていますが、もともと国が敷いた線路が分断され、細切れになっていくことが問題なのであって、糸魚川から松本まで直通列車が走ること、あるいは乗客、観光客の需要に合わせた列車を運転することが鉄道事業の基本と考えます。今後の存続のためにも、大糸線全線で乗車が増えるか否か、AIを使ってシミュレーションしてはいかがですか、伺います。

以上、1回目の質問です。よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

おはようございます。

田原 実議員のご質問にお答えいたします。

1番目のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしくお願いいたします。

2番目の1点目につきましては、今後も糸魚川総合病院との連携の下、産科医療体制が維持できるよう取り組んでまいります。

また、産科医療体制を確保するため、今年度2,000万円の予算を計上し、支援に取り組んでおります。

2 点目につきましては、能生国保診療所は、かかりつけ医機能や慢性期医療を中心に、医療提供をいたしております。

3 点目につきましては、地域医療構想は、地域が持つ医療資源を有効に活用し、上越圏域全体としての持続可能な医療体制確保と医療の質の向上を目指すものであり、本市にとって必要な医療体制の構築につながるものと捉えております。

4 点目につきましては、糸魚川総合病院、医師会と協力し、本市にとって必要な医療の維持・確保に努めており、引き続き安全・安心な医療体制を確保してまいります。

3 番目の 1 点目につきましては、子育て世代のニーズが多かった屋内遊戯施設の整備に合わせて、やまのい保育園に併設している糸魚川子育て支援センターの利便性向上のため、駅北子育て支援複合施設内に設置いたしたいものであります。屋内遊戯場の面積は、3 年度からの懇談会等で一度に 50 人程度が利用できる約 450 平米の広さとしております。

2 点目につきましては、基本計画修正案で、現状での行政の考えを示しております。

3 点目につきましては、DBO方式において、事業者選定がなされなかった場合については、従来の方式により施設を整備してまいります。

4 点目につきましては、塩尻市の施設とは違いがありますが、多くの市民からご利用いただける施設になるよう進めてまいります。

5 点目につきましては、基本計画を精査し、事業を進めてまいります。

6 点目につきましては、基本計画で示した事業範囲で考えており、近隣の民間所有の土地の利用は予定しておりません。

4 番目の 1 点目の 1 つ目につきましては、スタンプラリー等の実施により、利用者数が新型コロナウイルス感染症流行前の水準まで回復したものと捉えております。

2 つ目と 3 つ目につきましては、今年度は応援隊ファンミーティングをはじめ、「雪月花」の乗入れ運行やイベント助成、スタンプラリー等により 1,500 人程度の利用を見込んでおります。

4 つ目につきましては、利用促進効果のほか、沿線地域と鉄道事業者が連携して取り組むことによる一体感の醸成と情報発信による世論喚起の点で効果があるものと捉えております。

2 点目につきましては、応援隊の皆様からの貴重なご意見を取り入れながら、利用促進に努めてまいります。また、車両の増結については、利用者の状況に応じて対応いたしております。

3 点目につきましては、電化・非電化区間により、安全管理や設備の制約上、直通運転は困難であると聞きしておりますが、乗り継ぎの改善とともに、AIの使用に限らず、利用者の動向等の調査分析結果を基に要望してまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

 蘆本教育長。〔教育長 蘆本修一君登壇〕

○教育長（蘆本修一君）

 田原 実議員のご質問にお答えいたします。

1 番目の 1 点目につきましては、相馬御風の顕彰に軸足を置きながら、機を見る中で検討してま

います。

2点目につきましては、学校では社会科の時間に、第二次世界大戦が国民に与えた影響について学習しております。

3点目につきましては、平和学習の充実に資する人材の活用を検討してまいります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

教育長の答弁は、あっさりしたものでした。この後、伺ってまいりますので、よろしくお願いたします。

まずは、平和教育への認識と取組についての再質問です。

（1）御風と戦争の関わりを市民が知る機会をつくることの再質問です。

昭和25年に相馬御風先生が亡くなって、今年で73年。本当に相馬御風の生涯を顕彰していくならば、戦争との関わりをタブーとせず、御風が、戦争が国民や市民に及ぼしたものは何だと考えていたのか、随筆や作詞などの資料から知りたいと思います。市の資料に限らず、どこにどのような資料があるか、担当課で把握してれば教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嵐口文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 嵐口 守君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（嵐口 守君）

お答えいたします。

主なものといたしまして、まず考えられますのが、糸魚川市史昭和編の1、2、3でございます。また次に、糸魚川歴史民俗資料館で編集いたしました相馬御風宛て書簡集の4、これが学者研究者とか軍の軍人の方、そういった方との書簡がございます。3点目に主なものを上げるといたしましたら、新潟日報事業社さんで発行されました新潟県人物小伝というのがありまして、平成22年頃、山本五十六、小林虎三郎、良寛、直江兼続、そんな中で、相馬御風も取り上げていただいた資料がございます。そういったものが、主な流れとして記載が、まずございます。

ただ、より探求することができる、書類につきましては、昭和12年の日中戦争あたりから昭和19年に発行された書籍が、主なものと認識しております。これらを知るには、糸魚川市の市民図書館の2階に、奥に、相馬御風、学習室ですけども、御風コーナーがありますので、そちらでご覧いただくことが可能です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

金子善八郎さんの著書「相馬御風」、発行は新潟日報事業社、先ほどご案内があったものですが、その中に4ページほど記載があります。ここを入口にして、市民、特に若い市民や子供が、戦中・

戦後の糸魚川のことを学ぶ機会をつくってはいかがでしょうか、改めて教育長に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

霧本教育長。〔教育長 霧本修一君登壇〕

○教育長（霧本修一君）

郷土の偉人、相馬御風先生につきましては、一般的に歌人であるとか、あるいは詩人であるとか、良寛研究者であるとかいうふうな部分で、幅広い活躍をされたという部分で非常にそういった分野から顕彰に値するというので、子供たちが使っている郷土資料集の中にも御風先生の顕彰の背景的な部分の解説があります。それを使って子供たちが学習し、相馬御風のご自宅に行き、さらにまた学習するという機会を設けておりますけれども、戦争という部分にスポットを当てたという部分の取り上げ方は、特にしていません。社会科の学習の中で、学習指導要領に押さえる内容については、細かく資料集に基づきながら学習してはありますが、そういった視点で考えるというふうな部分については、今までちょっと欠けていたのかもしれない。改めて、その内容については、熟読させていただきながら、また、関係の皆さん方と相談してみたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

御風は、生涯において数々の歌の作詞をしました。代表作は、24歳で作詞した早稲田大学校歌、流行歌「カチューシャの唄」、童謡「春よ来い」、皆さんご存じだと思います。

私自身、親しみ、すばらしいと思うのは、昭和23年、死を直前にした御風が作詞した糸魚川中学校の校歌です。「踏めよ大地をかためよ意志を あすの日本おこさんわれら 世界平和のかがやくゆくて しかとめざして正しく直く いざや文化の花さく園に 共に学ばんほがらかに」、まさに戦争の後の大変な時代を生きていく若者への相馬御風からのメッセージソングと言えるのではないのでしょうか。ここに込められた平和のメッセージを今を生きる私たちがしっかりと受け止め、御風が我々に伝えたかった平和への思いを継いでいくことも、糸魚川市の平和教育ではないかと考えますが、教育長いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

霧本教育長。〔教育長 霧本修一君登壇〕

○教育長（霧本修一君）

お答えいたします。

御風が校歌に込めた平和へのメッセージ、次世代を担う子供たちへの最後の心からの叫びという部分で歌に残されているという部分については、今ほど田原議員からお伝えしていただきました。ここら辺りのところをやっぱりベースにしながら、御風が、いかに戦争との関わりの中で平和を望んでいたかというような部分についても、やはり子供たちに伝える必要があるだろうというふうには私は受け止めさせていただきました。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

学校で歌ってたときは何となく歌ってましたけど、御風先生が亡くなる年に自分が近づいてまいりますと、そのようなことが分かってきたのかなと感じるところでございます。

今回、（２）と（３）の質問をするため、私は、昭和10年頃にお生まれになった市民5名の方からお話を伺いました。皆さん戦争によって平和な生活と教育の機会を奪われ、戦後も苦勞して生きてきたことを伝えたい、伝えてほしいとの気持ちをお持ちですが、一方で、大変遠慮もあるということを知りました。そういった市民の思いに、我々はどう応えていけばよいかと考えました。

そこで、今回、高齢者の市民から若い市民へ伝えて、学んでいただくテキスト、70年後のあなたへ 88歳から18歳におくるメッセージの作成と平和教育への活用について提案しておりますが、いかがでしょうか。これは市長に伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

当市は、ご承知のとおり、平和教育については、非常に他の都市よりは先に進めさせていただいておられます。広島のパラレル事業もその表れだろうかと考えておりますし、宣言もさせていただいておられます。

そういう中で、いかに平和の、我々の国は尊い環境にあるかということ、やはり確認をして進めていきたいという気持ちは持っているわけでございまして、そのような取組を現在させていただいております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

今の取組で十分だと、平和都市宣言もやってるし、それでいいということでしょうか。

このご時世を見ましよう。テレビを見れば、戦争の大変な惨状が目に入ってまいります。子供たちは、あれを見てどう感じるのでしょうか。私は、市もこの平和ということ、さらには強く考える必要があると思って、今回質問しております。市長、もう一度ご答弁願えませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

平和という中において、今起きておるロシアによるウクライナの侵攻、また、イスラエルの状況を見たときに、必ずしも国によって、また、その事案によっては、なかなか分かりにくいところがございます。そういったところがどういう形でいけばいいのか、今起きたからといって即それを持ち込むというのは非常に危険が、私は感じておるわけであります。やはりもっと大局的なものの見方、そして、現在に置かれておる地球の経済の環境というグローバルな中において、現在どうなのか。経済、そしてまた、地球の自然環境、そういったところの成り立ちの中からあるのではないかなという、やはりそういったところをしっかりと学んでいっていただきたいと思ひますし、そういったところにやはり力を入れていきたいと思ひております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

市民が、というところで伺ってるんですけども、私は、糸魚川市民の、誰が誰に、どのように平和の尊さを伝えていくのかというところ、ここを伺いたい。

そこで、老人クラブ連合会の皆様のお知恵をいただきながら、まずは高齢者と若者、子供の少人数の座談会から始めてはいかがでしょうか。それをどう進めるかは、行政から知恵を出し、汗を出していただきたいと思ひます。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

磯野教育次長。〔教育次長 磯野 豊君登壇〕

○教育次長（磯野 豊君）

おはようございます。

田原議員おっしゃる平和教育というのは、子供たちのみならず、私たちにとっても非常に大事なことだというふうに思っています。そのために、市長が先ほど申し上げた、子供たちにとって平和教育なるべく、私どもは今取り組めるところは取り組んでいるといったところだというふうに思っています。

各学校でも、各地区、戦争といいますか平和教育に限ったことではないですが、先人たちをお呼びして、先人たちのそれまでのご苦労だとか、そういった機会は今設けております。そういった今、座談会というご提案なんですけれども、やっぱり各地区で、各学校でやはりそういったところは、小さなところから進めていかなければいけないというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

取り組んでいきましょうよ。

私は、いわゆる戦争を知らない子供たちの後の世代で、小学校のときから反戦歌としてのフォークソングやロックをラジオで聞き、ビートルズのメンバーであったジョンレノンの「イマジ」を聴いて育ちました。ベトナム戦争や湾岸戦争に大きな疑問を持ち、今も世界中で戦争があることを

悲しみ、強い憤りを感じます。他国のために日本が自ら戦争を起こすことや、自分の子供や孫が戦争の犠牲となることに反対し、平和を守る考えを持つのが、我々の世代であると信じています。

教育長の世代はどうですか。また、教育長は、子供たちや若者に平和を守る考えをどう伝えようとお考えですか。伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

鶴本教育長。〔教育長 鶴本修一君登壇〕

○教育長（鶴本修一君）

平和教育、最も大事な教育の分野だと私も思います。あわせて、環境教育も、今地球規模での起きてる諸事を見ますというと、大変大きな課題です。それをどのような形でもって子供たちに伝えるのか。

中学生が、広島派遣に行って、10名ほど学んできましたけれども、異口同音に、やっぱり被爆体験者の直接的な講話がいかにも心にしみたかという部分のところは、どの子も強調して書いております。あわせて、平和資料館に行ったときに、資料集ではちっちゃな写真で見るんだけど、実物の大きな写真をあいつた場面を見たときに、自分自身の心に落ちてきた部分のところの、物すごく何か興奮するような形でもって信じられないという部分のところを感じたという部分のところが、非常に子供たちの心の中に落ちたようでございます。そうなってきたときに、学習の中でいかに直接的な体験をされた方の話を聞くか。あるいは直接的なその写真を子供たちが学習の中で見るかどうかという部分、要するに、心に触れるような学習が、やっぱり幾重にも必要なんだろうと私は思ってます。どの程度実現できるかどうかについては、各学校、担任の裁量に任されていますけれども、やはり教育委員会の構えとしては、やっぱり本物に触れる機会という部分をうんとやっぱり大事にしていきたいという考えは一方に持っています。そうしたときに、やはり校長会での働きかけとか、もう一回、学校現場の担任の先生方への働きかけとかという部分がやっぱり求められるんだろうと思ってます。いろんな機会がありますので、今回の話については、やっぱり責任を持って伝えていきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

よろしく願いいたします。

戦争に反対することは、政治的立場にかかわらず、排除できない日本国民の常識と私は考えます。

新潟県出身の軍人といえば山本五十六、政治家といえば田中角栄と誰しもが思うところでしょうが、山本五十六は、アメリカとの戦争には反対だったが、やがて真珠湾攻撃の先頭に立ち、恐らくそのために出身地の長岡が、B29による大規模爆撃で多くの市民が犠牲になったと、私は子供の頃、父から聞いていました。

また、田中角栄は、戦争を知ってるやつが世の中の中心である限り、日本は安全だ。しかし、戦争を知らないやつが出てきて日本の中核になったとき、怖いなと語っていたと、田中角栄の側近で

あった政治家が言っております。

このような、戦争が国や国民をいかに苦しめることかを知っている政治家がいなくなってきた、戦争を知らない政治家が国を動かす時代になって、そのとき、私たち糸魚川市民はどう考え、行動していくべきなのか、米田市長の認識を伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私もそのように思うわけですが、やはり平和の尊さ、これはもう戦争を体験した日本国民は、実際に体験してなくても、そういった常識的な、また戦争に対してのそういった情報については、十分ほかの国よりはしっかりと受け止めておると思っております。教育の中においても、平和の大切さをやはり教育の中で伝えてるわけであります。

そこで、さらにその平和というところを考えたときに、私はやはり、もっと他の国の皆様方ともっともっとやはり近づいて交流をするべきだと思っております。

私、機会あってイランにも行かせてもらったり、また、中国にも行かせてもらったり、ほかの国も行った経験がございますが、押しなべて、やはり地域の国民の皆様は、非常にフレンドリーで本当に心優しい人たちが多いわけであります。そういう中で、早く国と国が、また市民と市民が、そういったところで心を通わすようなことがいいのではないかなと思っております。本当に顔と顔が合わせながら、いろんな情報を知って、そしてやはり連携しながら、自分たちの地球環境であったり、経済環境であったりを進めていくという、私はそういった環境になればいいと思っておる次第であります。

そのような中で、今、国際的な活動といいますと、ユネスコ世界ジオパークがございまして、そういったところで皆さんと、またさらにつながりを持って、連携を取っていければいいと思ってる次第でございます。当然、平和教育というものを根底に持ちながら、そういう自分たちの持つおる課題を解決していくような活動の中で、しっかりと連携をしていくことが大事かなと捉えている次第であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

では、質問の2、市内医療の充実、地域医療体制確保の取組について、再質問します。

（1）私はこれまでも、市内での出産ができる医療体制確保をと、強く訴え続けてまいりました。それが実現して安堵する一方、産婦人科医師の集約化という大きな流れの中で、今回の体制がいつまで持続するのか心配をしております。

以前に伺った話では、医師6名の分娩体制とすべしとのお達しがあり、それは糸魚川はおろか上越や富山でも難しいよねということだったと思いますが、その点はどうなりますか。市内で分娩できると思っていたものが、結局市外へ行ってくださいということにはならないのか心配をしていま

すが、いかがですか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

以前、産婦人科の関係で、維持するにはどれだけの医師が必要かというようなご質問があって、私のほうで5名から6名という数字を出してご説明したことがあります。それにつきましては、365日24時間分娩を受け入れると。そういう体制を維持するには、医師の働き方改革960時間の時間の中では、それだけの医師が必要だということでもあります。今回、糸魚川総合病院にお1人の産婦人科医が着任をいただきました。糸魚川総合病院ですと、毎年、糸魚川市の出産件数は140件ぐらい。令和4年で出生数が140、プラス里帰りの方がおられるわけですが、それから、ハイリスクの方を除けば、今の医師1名体制で何とか受け入れることができるということでもあります。恐らく方法については、必要になったときにオンコールの体制を取って、そして出産に備えるというふうに私は理解しております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

そのオンコールというのは、どういう状況なのか。前回ですかね、質問しましたけども、いろいろなケースが考えられる中で、やはり市民が、これは安心できるというような、納得していただけるような形になったのか。1名の医師を確保し、2,000万の予算を盛ったことは分かりますが、具体的にどうなるんだと。リスクはどうなんだと。その点、もう一度伺いたい。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

オンコールというのは、お医者さん、産婦人科医が仮に自宅におられる、また別の場所におられても、急にお産が始まった場合、必要な場合、電話ですぐ病院に駆けつける。そしてお産に当たるというのが、オンコールというふうにご理解いただきたいと思います。

1名、今まで2名でやってきたんですが、今回、これからは1名になります。ただ、急なお産、あるいは危険なお産についても、もう一人産婦人科医師おられますので、そして小児科もあります。そういうところで、緊急的なものについては受け入れると。決して、すぐ転送ということではなくて、受け入れる体制は整っておるというふうに理解をしております。

ただ、金曜日の伊藤議員の一般質問にもお答えしましたが、基本的に受け入れるのはリスクの低いお産で、最初からリスクの高いお産というふうに分かった場合については、近隣の大きな病院のほうを患者さんの、妊婦さんの希望に添って紹介をするという体制で考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

進めていくしかないですね。

では、（2）能生谷地区から糸魚川総合病院まで出てくる苦労があるという話を通告に出しました。医療体制の課題、交通の課題を住民の皆さんと共有していないと、これが解決には向かわないと思います。なので、現状と課題について、健康増進課と都市政策課にどのようなことが分かったか伺いたいと思います。

あわせて、それに対する今後の取組について、お考えがあれば伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

能生谷地区につきましては、確かに医療へのアクセスというのは弱い、大変、特にお年寄りについては、なかなか医療にアクセスしていくというのは難しい状況にあると思っております。

ただ、能生谷には、能生国保診療所というのを市で設置をしておりますし、これについても一般質問等でご説明をしてきましたけども、看護師さんが、タブレットを持ってオンライン診療を行っております。初診は、恐らく無理なんだと思いますが、慢性期の医療については、タブレットでもって往診をすることができますので、そういう中山間地域の交通の不便さにも対応しておるといふうにご理解をいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

おはようございます。

お答えいたします。

能生谷地区の皆様から、まず、糸魚川総合病院に行く足、距離もありますし、お困りという声は私どもは聞いております。

ただ、今の路線バスの状況でございますが、午前は、糸病方面に行く、病院に行くという方向、午後のほうは、家に帰るといふようなところに重きを置いたようなダイヤ設定をしております。その中で以前、直接糸魚川総合病院まで行けるバスが、1日2往復であったところを、お年寄りには大変かもしれないのですが、能生案内所前とかで乗り継いでいただくこと、あと、みなし直通と申しまして、そのまま乗っていただくことで、今は3.5往復の運行というところに少し拡大をして、少しでも行きやすくなればなというところでやっておるところでございます。

ただ、今は糸魚川総合病院の診療表を見ますと、午前中に主で、ただ、午後でないと受診できないというふうなお客様もいらっしゃいますけど、どうしてもニーズの多いところに多くの便を当てるといふような状況です。

もう一点、課題なんですけど、毎年、皆様にお配りするバスのダイヤについて、それぞれ乗り継ぎ

時間とか、そういうのも示してはおるんですけど、私ですら、その複数のダイヤを見ながら目的地まで行くという目的になったときに、あの紙だけでは非常に難儀です。それで、今では一緒に、それぞれの地区に、例えばサンプルで午前中に病院に行って、そのついでに、帰りに買物をして帰ってくる場合には、こういう使い方がありますよというような例示をしたり、あと、それ以上に詳しい個人の、私の時刻表というふうに呼んでおるんですけど、そういうものをお作りするサービスもしておりますよということで、周知をさせていただいております。これ、あまりご利用いただけないということは、それらの使い方をもっとPRしたりするということは、私どものまだ努力の足りないところだと思いますので、議員の皆様からもぜひ、市役所に言えば、そういうあなた専用のカスタマイズした時刻表みたいのがもらえるんだよというようなこともお伝えいただけると、私どもは助かります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

最近の事例として、長岡市山古志地域での県のモデル事業、巡回診療車でオンライン診療に取り組んでいると課長にお伝えしましたが、いかがですか。糸魚川の現状を踏まえ、糸魚川にふさわしいオンライン診療の形はどのようなものとお考えですか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

長岡市の山古志地域で巡回診療車を使用しながらオンライン診療を始めたというのを、議員からお伺いしました。少し内容を見させていただきました。長岡市山古志地区については、診療車という形でありますけども、国保診療所で行ってるのは、タブレットを持って、行っております。内容的にはそれほど遜色ない、国保診療所もタブレットを持っていても、特別遜色なく、長岡市の山古志と遜色ないぐらいの内容のものだというふうに考えております。当市、市域が広いものですから、今話をさせていただいたオンライン診療をはじめ、訪問診療という形もありますし、往診というものもあります。そして、さらには地域包括ケアシステム、これを有効に機能させるなど、そういう取組によって、いろんな総合的な取組によって、中山間地域の方でありますとか、高齢者の方、そういう方が、より簡単に医療にアクセスできたり、住み慣れた地域で安心して生活できる。こういう体制が、当市にとっては望ましいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

オンライン診療、あるいはリモート診療ということは、能生谷地区に限らず、中山間地域に長く住まいし、これからも住み続ける市民への医療ということで、私は2年前に一般質問でその必要性

について伺い、医師会、関係機関と協議して検討を進めていくと答弁いただきました。1年前にも、その後の成果を伺い、システムの問題や費用対効果の問題があり、今は難しいが、今後リモート診療が必要と考えており、能生国保診療所において、看護師がタブレットを持って訪問し、診察するケースを検証して、横展開を考えていただきたいと答弁いただきました。今日のご答弁も、その延長上にあるわけですが、その後どうなったのか。また、この先どうやっていくのか。糸魚川にとって一番よい形はどのようなのか。お考えがあれば、いま一度お答えいただきたい。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

確かに、一般質問の答弁の中で、国保診療所で始まったオンライン診療を横展開したいというお話をさせていただいております。オンライン診療というと、本当にオンラインで、なかなか対面で診療をしません。そうすると、触診だとか聴診だとかはできないわけで、お医者さんによってはそれを重視される方もおられます。そういうことから、オンライン診療、それから対面での診療、そして先ほど言いました、いろんな地域包括ケアシステムだとかそういうものを有効に機能させることで、糸魚川の医療というのは、しっかりした体制になるもんだというふうに考えております。

ただ、オンライン診療は今、最近始まったばかりでありますので、これについてはいろんな可能性があるというふうに考えております。糸魚川総合病院、それから医師会、保健所などで将来的な地域の医療体制どうあるべきかという議論も今スタートさせておりますので、今後こういうテーマについても、その場で、みんなで議論していきたいなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

明日の医療確保には、デジタル化やリモート医療は不可欠となる。なぜなら医師も看護師も減り、診療施設がなくなれば、もうそれしかないから。

しかし、デジタルやリモートは、医療を施す側だけでなく、受ける側にとってはどうなんだろう。そこにはどんなリスクがあるのか。その検証が必要ではないでしょうか。今の80歳代の方たちが、みんなタブレットを操作して、問診を受ける姿は想像できません。こういったことをどのように考えていくか。

今後の話となるのですが、近い将来、市が予算を組んで、そういった形に支出をしていく場合に、市民にとって本当に必要なものは何なのか。あるいは費用対効果についての検証が、重要であるということを指摘して、次の質問に移りたいと思います。

（3）糸魚川総合病院のダウンサイジング、医療規模縮小化について伺います。

糸魚川総合病院が、市民のため、なくてはならない基幹病院として存続することに、市長に先頭に立っていただき、感謝申し上げます。

さて、議会初日の市長の報告について、市民からお電話をいただいております。病床数が減る、大きく減るといふことの影響について、具体的にどうなるという報道がなかった。心配だが、市長は

どう考えているかというお尋ねでございましたが、いかがですか。地域医療構想を進める上での出来事なのでしょうか。米田市長にご答弁いただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

糸魚川総合病院の病床数を261から199に最適化するということについては、議会初日、市長のほうから行政報告をさせていただいております。糸魚川総合病院から、その理由、あるいは今の現状をお聞きする中でご答弁させていただきたいと思いますが、今、糸魚川総合病院における病床の稼働率、こちらについては1日当たり、患者数と稼働率ですけども、平成29年度では261床のうち243人、93.3%でした。ところが直近では、195人、74.7%、特に慢性期の5病棟の令和4年度の稼働率が、50%を割っております。今の現状を見ますと、200床、199床で、現状では賄える状況になっております。

また、若い看護師が多くて、糸魚川市外からおいでいただいております。そういう方も、出身地に戻って勤務したいという希望が多くあるように聞いております。そうなりますと、今後、医療スタッフの確保が困難になってくるというのは見通しが立つわけですが、261床をそのまま維持するということとなりますと、それに見合う設備でありますとか、人材の確保が必要になってきます。そうすると、経営にも大きな影響を及ぼしてきますことから、現状に即した病床に最適化をすると。急性期から回復期、そして地域ケアシステムの拠点となる病院を目指したいということで、お話をお伺いしております。

糸魚川総合病院の経営状況について少しお話をさせていただきますと、令和4年度、これは黒字を確保しております。しかしながら、本業では大きな赤字を出しております。それはあのコロナの補助金で何とか黒字を確保できたということではありますが、そうでなければ、とても大きな赤字であると。このまんま経営を存続するというのは、外から見ても本当に厳しい状況でありということでもあります。確かに病床数が減るということ、それだけ見るととても不安を感じるわけですが、総合的な判断をいただいて、ご理解いただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

今後、糸魚川総合病院の規模が縮小して、その中で救急医療対応は確保されていくのでしょうか。県の進める地域医療構想では、上越、妙高のエリアを含んで病院を再編して、専門性のある医療を集約化するわけで、となれば上越に集中します。そもそも県の進める構想の目的が、効率性や合理化ならば、その構想を考える県の間が、糸魚川の現状を知っているのか。どのようなニーズがあり、対応すべきか分かっているのかということがあります。人口減を原因とする医療の再編と集約化は必要なことは理解できますが、私たち糸魚川市民が望む医療体制をしっかりと位置づけないと、糸魚川市民は市外の病院へ行かなければいけない状況がさらに進むのではないですか。寒い日も暑い日も、病気を抱えて市外の病院へ行かなければならない未来が待っているのではないですか。そ

れが、市民が望む医療体制なんでしょうか、米田市長に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、議員ご指摘の点については、私も同じような危惧をいたしております。

しかし、ご承知のとおり、糸魚川総合病院は厚生連の病院でございます。民間の病院という形の中において、県内15の病院があるわけでありまして、その15の病院、今非常に医師不足、看護師不足の中で運営してるわけでありまして、どの病院も1つ欠けても全体に大きく影響が出てくる、そういう非常に厳しいところがございます。そして、そういう状況だからこそ、6つの村上、佐渡、小千谷、柏崎、そして妙高市、糸魚川市と、一体となって今、その地域、厚生連病院が核となっておる、そして公的病院として中心になっておる病院が、今立ち上がって、県と今連携を取らせていただいとるのも、そのことであるわけでありまして、やはり地域にとって必要な医療というのは、絶対必要なんだという形で、今連携をさせていただいとるわけでありまして。

そういう中で、我々といたしましても、今やはり人口減少で、病院の経営を今どのように支えてつなげていくか。そういうつなげてる間に、県として地域構想を挙げながら、県内の全域の医療をどう捉えていくかというところで論議いただきたいということで今進めております。そういう中で、上越ブロック、中越ブロック、下越ブロックとあるわけではございますが、やはり一番厳しい環境にある上越ブロックから今取り組んでおるわけでありまして、糸魚川から病院をなくしてはいけないということの中で、これが今進められておるわけでありまして。

ただ、診療科目が本当にどうなのかということも論議しなきゃいけないと思っております。糸魚川にとって必要な診療科目は、絶対残さなくちゃいけない。そういう中で進めていきたいと思っております。ですから、やはりこれもやはり人口減少における経営的な課題から起きている事柄だと思っておりますし、そして、さらに前段言いましたように、医師、看護師不足も大きな影響だろうと思っております。

私は、この産科をなくしてはいけないということで進めてまいっておりましたが、これについても県と厚生連と連携をしながら取り組んでおる事業でございまして、そういった形で進められてきておるわけでありまして。でありますから、糸魚川市にとって、そういった必要な医療は絶対残していくということは、これからも同じであると思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

必要な医療というところ、市長のお考え、県のお考え、市民のお考え、それぞれ違うかもしれませんが、市民から納得いただく答弁というのは難しいかと思いますが、市民が一番切実に思う医療のことです。市民の命に関わることです。行政の対応のみならず、医療体制の確保は、米田市長の責任で進めていただきたい。このことをお願いして、次の質問に移りたいと思っております。

質問の3、駅北子育て支援複合施設基本計画の問題点と市民合意についての再質問をします。

パブリックコメントに計画案が出されて、その後、その結果をもって、被災者住民や市民、関係団体との合意形成は進んだのか、確かな理解と多くの賛同が得られたのかという点、また、何ををもって合意形成したと言えるのか、その点、いま一度伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

パブリックコメントの前に、市民説明会を市内3地域で行っておりまして、その後、地域との懇談会につきましては、地元であります区へ、区長の皆様、またその後、商店街の皆様と懇談を重ねております。具体的には、市民全体にということは今現在まだ行っておりませんが、今後また、この基本計画の修正案を進める中で、また、事業方針が決まっていく中で、市民の方々からご意見を伺いまして、こちらのほうの計画のほうを進めてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

一番の問題は、DBO方式で進めることだけが先行していることです。なぜ市長は、DBO方式にこだわるのでしょうか。

DBO方式のメリットは、当初の計画を合理的・効率的に持続していかなければいけない施設の運営のために、設計と建設と運営を一体的に進めることができると理解していますが、それは糸魚川市の例でいえば、ごみの焼却施設のように、自治体が責任を持って、決められたごみ処理を長期に行う、言わば工場のような施設にふさわしい方式です。それがなぜ、今後、対象者が減るばかりと予想される子育て施設や、住民要望があり、街なかのにぎわいに資するような建物の建設と運営に用いられるのでしょうか。私には理解できません。

予定では、定例会でDBO方式で進めるための議案を出すことをやめましたが、この計画を市民が望むものとして完成させ、将来も喜ばれるものとするには、DBO方式がふさわしいとは考えておりません。その点、いま一度、行政の考えを伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはりいろんな手法が、いろいろ整備のときには考えられるわけでありまして、我々といたしましては、この糸魚川地域の中の市の職員、また関係者の中においても、やはりいろんな情報・知識を持っておりわけでありまして、それをさらに広く輪を広げて、多くのいろんな情報をいただく中で、そういった最先端といいまじょうか、いろんな情報をいただく中で造っていきたい。そして、

これはやはり糸魚川市にとっても大きな事業でございます。そのようなことから、広く意見を聞きながら進めていきたいということでございまして、それに進めさせておりますし、そして、今皆さんにご提示した日程より少し時間をいただいたのは、我々としてもその辺をもう一度しっかりと確認をしながら、そしてまた、議員の皆様それぞれをお示ししながら詰めていきたいということで少し時間をいただきましたが、基本的にはそのような形で取り組んでいきたいと思っております。多くは、やはり情報をいただきたい。そして、多くの考え方をいただいて、専門的な見地から、そしてまた、全国にはいろいろ進めておる中で、いろんな考え方があろうかと思うわけでありまして。そういったものを、持っておる人たちと連携を取りながら、糸魚川市に設置をしていきたいという考えでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

DBO方式で進める根拠になるのかなど。雲をつかむような話としてしか、聞こえてまいりません。

時間が参りましたので、終わります。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、田原 実議員の質問が終わりました。

暫時休憩いたします。

再開を11時15分といたします。

〈午前11時08分 休憩〉

〈午前11時15分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、宮島 宏議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。〔14番 宮島 宏君登壇〕

○14番（宮島 宏君）

清新クラブの宮島 宏です。

今回の私の一般質問では、2つの項目について質問をさせていただきます。

1つ目は、交通安全について、2つ目は市民の安全と危険な動物についてです。

これより質問に入ります。

最初に、1、交通安全についてです。

J A F（一般社団法人日本自動車連盟）は、本年10月に信号機のない横断歩道実態調査の結果